



武智 邦典 議員

文化ホール場所変更発言で波紋が広がったが

問

市長は今年2月、議会に対し、文化ホールをウエルピア伊予から街中へと発言し、審議会は現在中断している。街中施設での駐車場や、車、歩行者の動線をどう考え、描いているのか。

答 中村市長

建設場所については、文化協会ほか4団体からの要望を熟慮、検討した結果、ウエルピア伊予から街中へ変更したいと発言した。

その後、具体的な場所として、市が関係する湊

町の伊予公益北側の土地及び広場通りの駐車場として使っている伊予市外二町共有物組合の土地を候補地として検討した経緯がある。

しかし、駐車場等の位置的な問題や市道灘町中央線の状況などから、不適と判断し、この場所より、むしろ市有地である現在の保健センター、図書館の敷地を有力候補地として検討してきた。

この場所では老人福祉センターと公民館が昭和49年に建設され、38年余り経過しており施設の耐震性やバリアフリー等の



国道378号に面した郵便局



老人福祉センター・中央公民館

問題もあり、具体的な対応計画は持ってなかったが、今回諸問題を総合的に勘案する中で、図書館及び文化ホール機能とあわせた複合施設として改築し、社会教育分野の拠点として整備、集約するとの考えに至った。

一方、駐車場整備は、現在、進捗している国道378号の歩道整備計画により、郵便局の敷地が一部買収されると聞いており、このときに郵便局の移転が予想される。

そうすると、敷地が378号に面し開放され、平面駐車場やポケット

パークを位置付け、また現在の保健センター、図書館北側では今後都市計画街路築港白水線の改良計画がある。ここに立体駐車場を整合した形で整備することで、利便性の向上にもつながる計画であると思っている。

ウエルピア伊予の今後をどうするのか

問

図書館・文化ホールの場所が変更されると用途の変更ができなくなる可能性が強い。現在の市街化調整区域のままでは一定の将来展望が見えてこない。持続可能な施設としての計画を問う。

答 中村市長

現在県において、松山広域都市計画における都市計画の基本方針となるマスタープランの策定中である。

このマスタープランに、ウエルピア伊予の市街化区域編入を記載しており、この計画をもとに市街化編入について県と協議を進め、4～5年程度で市街化編入の決定が行われるよう作業を進めている。

都市計画決定の変更理由については、より市民の利便性を向上させる施設建設を可能とするため、土地利用に制限がある現在の市街化調整区域から市街化区域への編入を行い、都市総合文化施設としての機能充実を図ることとして県と協議している。

ウエルピア伊予は、多くの市民から存続を求め署名が提出されたことを受け、平成20年1月に現有機能を維持する目的で購入した。今回地元から提出された要望書を受け、真摯にウエルピア伊予の存続に関する検討を行っていききたい。